

# 多古町の「お祭り男」が青年部活動を語る



平成30年度千葉県商工会青年部主張発表大会が7月6日、千葉市のTKPガーデンシティ千葉で開催されました。この大会は、青年部活動や青年部員としての活動を発表し、相互に研さんすることにより、地域のリーダーとして意識の高揚や若手経営者・後継者としての資質の向上、地域活性化につなげることなどが目的とされています。発表時間は1人10分間で、内容・構成・表現力・態度の4項目の審査基準によって最優秀賞1名、優秀賞1名、優良賞7名が決まります。この大会には千葉県の各ブロック(支部)の代表者9名が出席し、東部ブロック代表として、町商工会青年部から伊橋孝太郎さん(御料地)が出席し、見事に優秀賞を獲得しました。

今回は、優秀賞に輝いた伊橋さんの主張発表を紹介します。

多古町のしいかご舞は神楽の奉納舞の1つです。毎年7月25日、26日に行われる多古祇園祭に、豊作・無病息災・雨乞い・子孫繁栄等の願いを込め、神社前の舞台上で舞が奉納されます。この芸能は、昭和50年に「多古のしいかご舞」という名称で千葉県無形民俗文化財に指定され、翌51年には国の無形民俗文化財に選ばれています。そんな良き伝統が残る多古町は、世界の玄関、成田空港に隣接している人口1万5千人弱の農業が盛んな町です。歴史ある町の大好きなお祭りを通じて出会った先輩方

に誘われ、私は多古町商工会青年部に入部しました。お祭りと仕事が一生涯命に出来れば満足していた私は当時、この青年部活動というものがあまり好きではありませんでした。なぜなら、イベントが終われば飲み会あるよ！いつもそんな誘い文句でした。私はお酒が全く飲めないので興味が湧かず、先人観だけで時間の無駄な気がして参加せずにいました。ところが昨年、先輩に「お祭りやるからぜひ参加してよ！お祭り男の孝太郎がいないと始まらないからさ！」と誘われ、お祭りならまあいいか

と、軽い気持ちで参加したのが毎年10月末に行われる多古町版ハロウィーンともいうべき「お月見どろぼう」でした。お月見どろぼうは、思い思いの仮装をした子どもたちが、月明かりに照らされた商店街を練り歩き、各お店であいさつをし、クイズに答えゴールを目指すウオークラリー形式のイベントです。もともとは、人通りが減り、商店街離れしてしまった子どもたちを呼び戻し、商店街に活気を取り戻そうと6年前から始まったイベントだったので、商店街の有志の方々の力だけでは、想

定を超える参加人数により運営が困難となり昨年惜しまれつつも幕を閉じてしまいました。しかし、子どもたちから「なんでやらないの？またやってよ！」という声が続々と大きくなり、そこで立ち上がったのが、我らが商工会青年部。お月見どろぼうを継承し復活させることになったのです。急なこともあり、時間も予算もありませんでしたが私たちには熱意がありました。※クラウドファンディングで寄付を募り、町内を回り、協賛やお菓子を集めました。驚くべきはその量で、4トン車1台分に

相当する勢いでした。「町を良くするためならいくらでも協力するよ」と、聞こえてきた熱い声援に、我々への期待をひしひしと感じました。イベント当日には、お祭りを通して子どもたちと交流のある私が司会進行役をやらせていただき、部員みんなの支えもあり、無事に大役を務める事ができました。私がこのイベントに参加して

感じた事、それは、私たち商工会青年部が受け継いだのは、お月見どろぼうというイベントだけでなく、先人たちの町への愛、子どもたちへの思いだったのです。そこから商工会青年部に対する思いが一変し、こんなに地域発展のために頑張っている会なんだと改めて感じました。自分たちの住む町の発展につなげようと頑張る活動

を行っている商工会青年部が大好きになりました。人口減少、少子高齢化が進む今、青年部活動を通じて地域の新しい価値を生み出し活性化させ、より良い地域づくり、住み良い街づくり、誰もが住みやすい多古町になるように私は今後も活動していきます。町が変わり、より良い地域になればおのずと商売につながるかと信じています。今

後も、青年部活動や家業に従事し、多古町に伊橋孝太郎あり！と後世に名が残るよう、仲間たちとこの町で生きていく！  
(二部省略)

※クラウドファンディングとは：  
不特定多数の人が主にインターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。

## インタビュー

### 主張発表者 伊橋孝太郎さん

2カ月前から構成を練り始めて、作成した発表文を周りのメンバーに見てもらったり、先輩に直してもらったりを繰り返して行ってきました。その中で少しずつ形になっていき、前日の夜に最終的な文章が完成しました。そこに至るまで、多くの方に協力いただき、仕事が終わってから集まれるメンバーを中心に、遅いときは日をまたぐくらいまで残って練習を重ねました。優秀賞という結果については、最優秀賞を目指していたので青年部の皆様には申し訳ないという気持ちが一番です。その感情を除けば個人的には、この結果は良かったと思っています。ほぼ練習通りの発表ができましたし、発表時間も10分ちょうどで終わったという結果にも満足しています。これまでは仕事を理由に商工会青年部の活動に参加していませんでしたが、今回発表者に選んでいただき、こういう場に参加してみると、いろんな方と出会え、人とのつながりが広がっていくことを実感しました。今後、町のイベントで商工会青年部が主体となるイベントがあれば小さなものからでも始めて、町民の皆さんに商工会青年部の活動を知ってもらえればと思います。



### 多古町商工会青年部長 佐藤利治さん

まずは、孝太郎くんをはじめ、毎晩遅くまで協力してくれた青年部員の皆さん、サポートいただいた先輩方に感謝したいです。今回、最優秀賞に値するくらいの発表をしてくれました。最終的に大事なのは勝ち負けではなく、お月見どろぼう含め商工会青年部の活動を振り返って、孝太郎くんが一つの形にしてくれたこと。商工会青年部っていいな、と改めて思わせてくれました。

今、町を見ても一軒一軒のつながりが希薄になっているような気がします。その中で、僕らのような異業種の交流はこれからの時代だからこそ大事になってくると思います。現在、多古町を代表して山崎勝矢さんが千葉県商工会青年部連合会の会長として頑張っています。今後も地域活性化のために、商工会青年部一丸となって取り組んでいきたいです。



多古町商工会青年部の皆さん